

発行

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
 清水港湾事務所
 御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
 静岡市清水区日の出町7番2号
 TEL. 054-352-4146(代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>



～お知らせ～

- ・第71回 清水みなと祭り 8月3日(金)～8月5日(日) 場所:さつき通り、清水港日の出頭他
- ・御前崎みなと夏祭2018 8月4日(土) 場所:マリンパーク御前崎(御前崎市港6104-9)
- ・清龍丸一般公開 9月1日(土) 場所:清水港日の出頭
- ・平成30年度 静岡市・静岡県総合防災訓練 9月2日(日) 場所:静岡県内



おめでとうございます ～「港湾関係功労者等表彰式」～

7月19日(木)、清水マリンビルにて『平成30年度「海の日」式典』が開催され、港湾振興発展などに貢献された16人(団体含む)の功績をたたえ表彰を行いました。受賞者は以下のとおりです。

中部地方整備局長表彰

○港湾振興発展

- 前 牧之原市長 西原 茂樹 様*
- 前 清水漁業協同組合代表理事組合長 宮城島 昌典 様

○永年勤続

- 株式会社鉄組潜水工業所 武内 昭人 様
- 河津建設株式会社 桑原 康夫 様

○海をきれいにするための一般協力者

- 株式会社東遠浄化槽管理センター 東遠ビーチクリーン 様*

※2名は、7月26日(木)名古屋市内にて表彰。



<中部地方整備局長表彰 宮城島 昌典 様>



<港湾関係功労者等表彰式 受賞者の皆様>

清水港湾事務所長表彰

○海をきれいにするための一般協力者

- 特定非営利活動法人 富士山クラブ 様

○港湾建設功労(優良工事)

- 東洋建設株式会社 名古屋支店 様
- 大石建設株式会社 様

○港湾建設功労(優良業務)

- 株式会社日本港湾コンサルタント 中部事務所 様

○港湾建設功労(社会貢献)

- 河津建設株式会社 様

○港湾建設功労(優良工事協力会社)

- 錦海運建設株式会社 様
- 有限会社伊豆海洋 様
- 株式会社新村組 様
- 日本海上工事株式会社 様
- 有限会社亀山建設 様

○港湾建設功労(優良工事技術者)

- 東洋建設株式会社 名古屋支店 仲 保夫 様

○港湾建設功労(優良工事協力会社技術者)

- 錦海運建設株式会社 平野 永治 様
- 日本海上工事株式会社 大淵 正一郎 様

(順不同)

「みなとオアシスマぐろのまち清水」登録証交付式開催

6月15日（金）、清水港が「みなとオアシスマぐろのまち清水」として、全国で111番目のみなとオアシスに登録されました。清水港は冷凍マグロ取扱量日本一を誇る港であり、ここにマグロをテーマにした「みなとオアシス」を置き、情報発信の拠点とすることで、「清水マグロ」の認知度向上や観光客増加による地域活性化を目指します。

6月17日（日）には、みなとオアシスの代表施設となった清水魚市場「河岸の市」において、登録証交付式が開催されました。

当日は、地元園児達による「かっぱれ」披露に始まり、田辺信宏静岡岡市長より「来年は清水港開港120周年。みなとオアシス登録をその起爆剤とし、官民連携してますます清水港を盛り上げていきたい。」と挨拶が述べられました。来賓である望月義夫衆議院議員からは「近年は日本での魚食が減ってきている。これからは「まぐろのまち清水」から世界に魚文化を広げていく。」と祝辞を頂きました。

その後、登録証交付者である菊地身智雄港湾局長により、田辺信宏静岡岡市長へみなとオアシス登録証が手渡されました。

最後に、地元を代表して清水魚（株）宮城島昌典社長ならびに、清水魚市場清水河岸の市協同組合深澤寿昭理事長より、登録にあたっての感謝の言葉が述べられました。

交付式会場では「マグロ汁」や「緑茶」などが振る舞われ、来場者や出席者のみなさんが清水のマグロを楽しみました。



<登録証交付の様子>



<「かっぱれ」を踊った園児達との記念写真>

下田港防波堤大型ブロック据付

下田港で整備中の防波堤の入り口部分（開口部）で、7月1日（日）と18日（水）に大型ブロック（長さ約9m^{*}×幅約10m×高さ約7m）の据付作業を実施しました。*最大長の部分

これは、荒天時でも下田港内に船が安全に停泊することができるよう整備を進めているものです。

据付作業では、国内最大級（高さ約100m×長さ約100m）の起重機船「富士」が使用され、今回の作業で開口部への全ての大型ブロックの設置が完了しました。

今回の据付作業は、当初は、6月中旬に完了する予定でしたが、台風等の影響で、作業が実施出来ない日々が続いていました。据付作業が完了したことで、下田港の海象状況の厳しさを改めて実感しました。携わった作業員も「荒天が続きやきもきしたが、無事据付が完了して安心した。」とホッとしていました。

今後、年内には大型ブロックの周りを整備し、防波堤の開口部を完成させます。そして、年度末までに防波堤の先端に新しい灯台を設置し、船が通れるようにしていく予定です。



<起重機船「富士」での移動状況>



<大型ブロック据付状況>

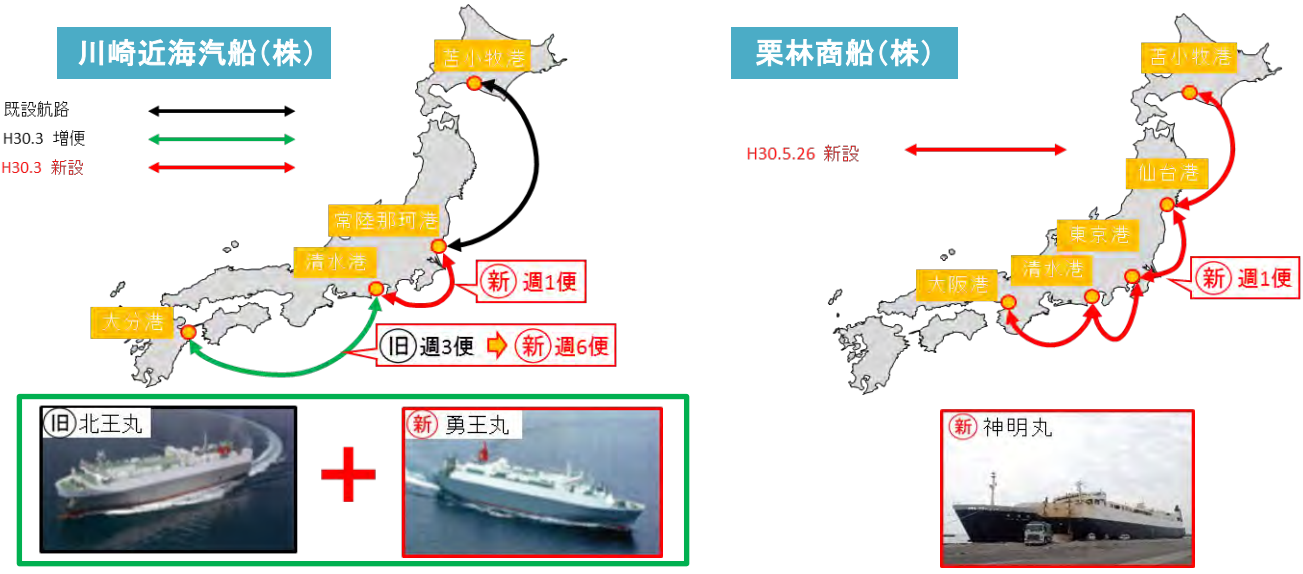
清水港 RORO 船航路の拡充

今年に入り、清水港に入港するRORO船の便数の増加が進んでいます。RORO船とは、貨物を積んだトラックやトラックの荷台ごと輸送する船のことです。近年、長距離ドライバー不足や貨物輸送におけるCO²削減のため、RORO船の期待が高まっています。

川崎近海汽船(株)が運航している清水港と大分港を結ぶRORO船は、これまで清水港に「北王丸」1隻による週3便のペースで入港していましたが、今年の3月より、「勇王丸」も加わり、2隻体制による週6便のデイリー運航(日曜除く)となりました。また、週1便で清水港と常陸那珂港を結ぶ航路も就航し、既設の苫小牧港と常陸那珂港とのRORO船航路と合わせ、九州・首都圏・北海道の海上ネットワークが形成されました。

5月29日(火)には、栗林商船(株)が運航するRORO船「神明丸」が清水港に初入港しました。このRORO船航路は、5月26日(土)から運航が開始され、苫小牧港—仙台港—東京港—清水港—大阪港を1週間かけて往復し、清水港には週2回寄港します。これにより、新たに関西、東北方向にも物流ネットワークが形成されました。

清水港におけるこのようなRORO船航路の拡充は現在整備中の高速道路との相乗効果により、清水港が国内の物流拠点として、益々成長することが期待されます。



東海大学の学生が清水港の港湾行政を学習 ～清水港湾事務所長が特別講義を行いました～

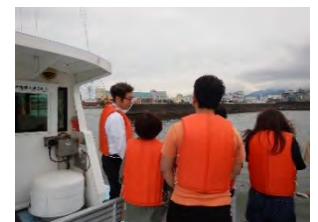
6月14日(木)、東海大学海洋学部海洋文明学科にて、当事務所長の木村が特別講義を行いました。特別講義では、3年生36名を対象に「日本の港湾政策及び清水港の港湾行政」という題目で、日本の港湾物流、港湾防災、クルーズ船の動向、清水における港湾行政の取り組みなど幅広く説明しました。

学生は、皆真剣な表情で講義に聞き入っている様子で、最後に活発な質疑応答も行われました。

また、翌週には同学部2年生9名が港湾業務艇「まさき」に乗船し、清水港内を見学しました。船内からは、防波堤、岸壁などの港湾施設の状況や、実際にコンテナ船でコンテナが積み降ろしされる状況などを見ることができました。



<東海大学での講義の様子>



<清水港を見学する様子>

港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト 清水港内に設置したブロックを観察しました

昨年よりスタートした「港湾技術を活用した海辺の環境創造プロジェクト」の観察結果を報告します。設置より約半年が経過し、清水マリナーパーク、新興津防波堤に設置したブロックには、藻類や小型生物の着生が確認されました。

場所	設置	設置したブロック等 (H29.11月)	観察結果
清水マリナーパーク	(株)不動テトラ	イオンカルチャープレート・貝藻くん付きブロック等  イオンカルチャープレート付き  貝藻くん付き	4/24観察  イオンカルチャープレート付き  貝藻くん付き  ダイナンギンボ <ul style="list-style-type: none">• 表面に珪藻などの微細藻類が着生。大型海藻類の着生はなし。• 貝藻くん内や表面に、ヤドカリ51匹、ダイナンギンボ1尾、モエビ類などを確認。
	日建工学(株)	ワカメの種糸をつけたアミコンと通常ブロック  アミコン 普通コンクリート	5/29観察  アミコン  アミコンについた緑藻類 <ul style="list-style-type: none">• ワカメは確認できず流出したものと推測。• いずれも生息場所として機能し、小さなウニカニを確認。• アミコン表面では、普通コンクリートよりも緑藻類が大きく、生長が進んでいる傾向がみられた。
		夏休み親子見学会で作成したミニアミコン×6個  約20cm	5/29観察  引き上げ後のアミコンブロック <ul style="list-style-type: none">• ブロック表面が黒く変化。• 一部藻類が着生。
新興津防波堤	(株)不動テトラ	既設テトラポッドにイオンカルチャープレートを設置 (水深2m, 4m, 6m)  水深4m設置時	4/24観察  水深2m  水深4m  水深6m <ul style="list-style-type: none">• 水深2m～4mでは、ウミウチワやフクロノリ、有節サンゴモなどの小型海藻類が着生。• 周辺にはホンダワラ類やサザエが着生。

より詳しい内容を、HP で公開しています。(http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp/env_project/)

地域のイベントに参加・出展しました！

～黒船祭～

5月18日（金）～20日（日）にかけて、下田市内において『第79回黒船祭』が開催されました。このお祭りは下田港への黒船来航と開国を記念して、毎年行われています。初日から市内には多くの出店が立ち並び、大勢の人が行き交いました。また大通りではパレードが行われ、さまざまなパフォーマンスが披露されました。2日目の19日（土）の夜には海上花火大会が行われ、その迫力と美しさに観客からは、大きな拍手が起きていました。



＜日米親善綱引き大会の様子＞

そして迎えた最終日、日米親善綱引き大会に、我々、清水・下田港湾事務所もチームを結成し、参戦しました。一回戦目は、相手チームの息のあったプレイを前に惜敗してしまいましたが、二回戦目では、チームプレイの大切さを学び、強敵米軍チームから激戦の末、勝利を収めました。勝った時はとても嬉しく、皆でハイタッチして喜びを分かち合いました。今回初めて、このような行事に参加しましたが、地域の皆さまとも交流することができ、良い思い出となりました。

～清水港フラワーフェスタ～

5月27日（日）、清水マリンパークにおいて、『清水港フラワーフェスタ2018』が開催されました。このイベントは、清水港周辺が花で囲まれ市民が花と触れあえるフラワーショーとして、ウォーターフロントに賑わいをつくるものです。当日は、バンド演奏やフラダンス、フラワーアクションなどが行われました。



＜防波堤について説明する様子＞

当事務所も港の紹介ブースを出展し、防波堤模型による実験、中部管内“みなとオアシス”の紹介やパンフレットの配布などを行いました。特に防波堤模型による実験は、実際に波を起こし、防波堤の機能を体感することで、普段は港について知る機会が少ない方にも興味をもってもらい、港を身近に感じていただくことができました。

～踊夏祭～

7月15日（日）、焼津市大井川地区の大井川港特設会場にて開催された『第18回踊夏祭（おどらっかさい）』に、当事務所も港の紹介ブースを出展しました。隣では、中部みなとオアシス連絡協議会によるPRブースが出展され、愛知・三重・静岡県内のみなとオアシスについて、クイズが出されました。



＜中部みなとオアシス連絡協議会によるPRブースの様子＞

踊夏祭は旧大井川町の時代から毎年開催されている一大イベントで、市民のチームが「おどらっかコンテスト」「フリーステージ」などで、さまざまな踊りを披露します。

当日は、踊りの他にも、第13回大井川港トライアスロン大会、三ヶ日手筒花火なども行われました。更に今年は、人気アイドルグループSKE48のメンバーによるミニライブも行われ、会場は例年以上の盛り上がりを見せていました。

《ご紹介》 以下の県内外の学生が清水港を見学しました！



- 6月 1日（金） 明治大学附属明治中学校2年生
- 6月21日（木） 東海大学海洋学部生



シリーズ「富士川水運」①（全8回）

江戸時代から昭和初期まで山梨県と静岡県を結ぶ重要な輸送ルートの一つ「富士川水運」。現在の清水港発展の原点となった「水運」について、甲州からの年貢米（甲州廻米）を中心にお話しして行きます。

戦国時代、武田氏が治めていた「甲斐」と「駿河」の交流は、山の中を縫うように進む「甲州往還」「駿州往還」などと呼ばれる道に頼っていました。甲府より身延を経由して清水区興津に入る道と、身延付近で富士川沿いに南下し、富士市方面にたどり着く道です。甲斐と海とを結ぶこの道で駿河から重要な「塩」を運んでいました。戦国時代、今川氏の滅亡と共に、この道で武田軍は駿河方面へと進軍。「塩」と「湊」を確保し、清水に江尻城、武田水軍の拠点として袋城などを築きます。

江尻という地名は、一般的には、巴川「江」の河口「尻」から取られたとされていますが、甲府盆地の南端、富士川町では、釜無川と笛吹川が合流し富士川の始点となるこの土地を「戸間口」と呼び、富士川を「江」、江尻を富士川の終点「尻」とする見方があるそうです。

関ヶ原の戦いで、天下を取った徳川家康は、甲州と駿河間の新たな物流手段として慶長12年（1607）京の豪商として知られる「角倉了以（すみのくら りょうい）」に富士川の開削を命じます。

角倉了以は「茶屋四郎次郎」の茶屋家、「後藤四郎兵衛」の後藤家と共に、京の三大豪商として知られた「角倉」家に生まれました。角倉家は、近江國の出身で「吉田」姓を名乗っており、佐々木家の分家と言われています。室町時代中期に上洛し、幕府のお抱え医師になります。その後、医術により財を成した吉田家は、その資金をもとに土倉業（貸金業）を営むようになります。その際屋号として用いたのが「角倉」。これは、上洛して以降、代々住んでいた桂川に面した嵯峨には古くから、官倉（幕府の米蔵）があり、京の西の倉は「角倉」と呼ばれていた事に由来します。了以が移転建立させた「千光寺」（京都市西京区嵐山）の資料によると、了以の代になり、医療を営む「吉田」姓から土倉業を営む「吉田」姓を屋号と同じ「角倉」と名乗るようになったそうです。



【角倉了以木像】
（京都市：千光寺）

信長の時代、楽市楽座の奨励により「帯座」の経営で富を増やします。豊臣時代に「帯座」が廃止になると了以は、蓄えた財を基にして、東南アジア（主にベトナム）との朱印船貿易に活路を見出します。1603年、徳川家康は他の豪商に先んじて了以に通商を命じます。伊賀越えの際に、尽力したとされる茶屋四郎次郎よりも先に通商許可が出た背景には、医術に詳しい角倉家による漢方薬輸入が、家康に気に入られたという説もあります。それ以降、毎年のように「朱印状」を賜りますが、1605年の京都大堰川（おおいがわ）【現在の桂川】の開削事業を始めとする河川開削事業にも着手していきます。

※このシリーズは「富士川水運」について紹介するもので、今回は連載1回目です。

山口 博史(やまぐちひろふみ)昭和43年 静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみななどに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

江口・浦野 Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp